パワード・スタジオモニター

3 Series MkⅡ

対象製品:305P MkⅡ、306P MkⅡ、308P MkⅡ
(パワード・スタジオモニター)
LSR310S(パワード・サブウーファー)

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

2018年5月版

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

■必ず AC100V(50Hz/60Hz) の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。

■必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となります。また、電源コードは他の機器には使用しないでください。

■電源コードの上に重い物を乗せたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだら、ただちに使用を中止して販売店に交換をご依頼ください。

■確実にアース接続をしてください。また、アース線の着脱は電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となります。

■水に入れたり、濡らさないでください。また、水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。火災や感電の原因となります。

■煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きた時は、ただちに電源コードをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

■分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

■長時間使用しない時や落雷の恐れがある時は、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。また、雷が鳴り出したら金属部分や電源プラグには触れないでください。

⚠ 注意

■斜面や不安定な場所に設置しないでください。転倒 / 落下によるけがや故障の原因となります。また、滑りやすい面に置くと音の出力エネルギーによってスピーカーが動いてしまう恐れがあります。付属のゴム足を底面に取り付けるなどの滑り止め対策を施してください。

■以下のような場所に設置しないでください。火災や故障の原因となります。
・直射日光のあたる場所
・温度の特に高い場所、または低い場所
・湿気の多い場所
・ほこりの多い場所
・振動の多い場所
・塩害や腐食性ガスが発生する場所

■機器の移動は、電源コードや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。接続したまま移動すると、けがや故障、ケーブル破損の原因となります。

■配線は、全ての機器をコンセントから抜き、取扱説明書に従って正しく行ってください。接続したまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。

■濡れた手で、電源コードや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。

■電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。また、機器の電源を ON にする時は、スピーカーの破損を防ぐために一番最後に本機の電源を入れてください。電源を OFF にする時は、一番最初に電源を切ってください。

■大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。

■過大入力を加えないでください。また、長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となります。

目 次

安全上のご注意 …… P.02
目次 …… P.03
梱包内容の確認 …… P.04
開梱 …… P.05
各部の名称と機能
・305P Mk Ⅱ /306P Mk Ⅱ /308P Mk Ⅱ …… P.06
・LSR310S …… P.08
セットアップ
・設置 …… P.10
・接続と電源の ON …… P.11
・音量 / 音質の調整 …… P.12
・電源の OFF …… P.12
トラブルシューティング …… P.13
仕様 …… P.14

梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱ

- ■ 本体
- ■ ゴム足×４（1 シート）
- ■ 電源コード
- ■ 和文取扱説明書
- ■ 保証書

LSR310S

- ■ 本体
- ■ 電源コード
- ■ 和文取扱説明書
- ■ 保証書

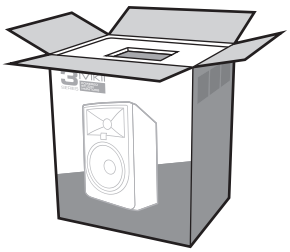
開梱

損傷を防ぐために、以下の手順に従って開梱してください。

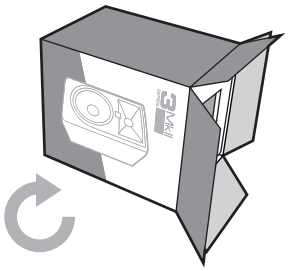
⚠注意 ・ドライバーは触ったりぶつけたりしないように注意してください。音質の劣化や損傷の原因となります。

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱ

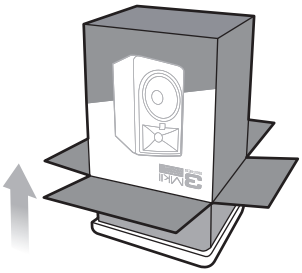
1. 箱の上面を開けます。



2. フラップを外側に開き、発砲スチロール製の梱包材が外れないように押さえながら、箱を上下逆さまにして床に置きます。



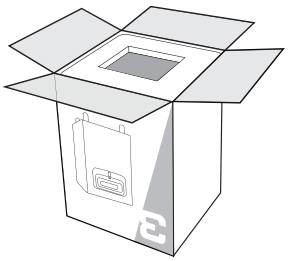
3. 本体が持ち上がらないように注意しながら、ゆっくりと箱を引き上げます。



4. 上下逆さまの状態を元に戻してから、梱包材、袋、保護シートを取り除きます。

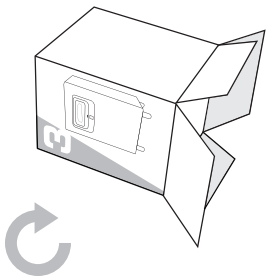
LSR310S

1. 箱の底面を開けます。

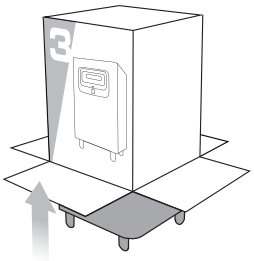


2. 発砲スチロール製の梱包材を取り除き、袋から本体の脚を出します。

3. フラップを外側に開き、本体が外に出ないように押さえながら、箱を上下逆さまにして床に置きます。



4. 本体が持ち上がらないように注意しながら、ゆっくりと箱を引き上げます。



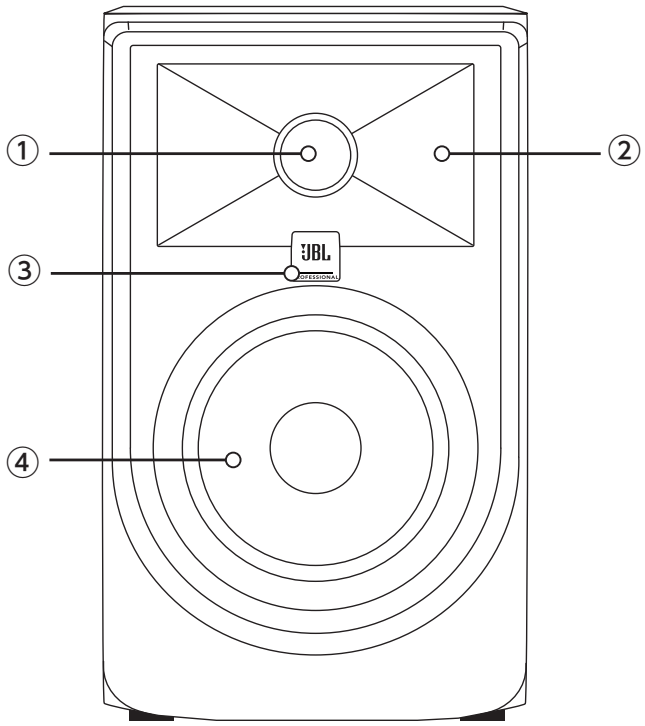
5. 梱包材と袋を取り除きます。

各部の名称と機能

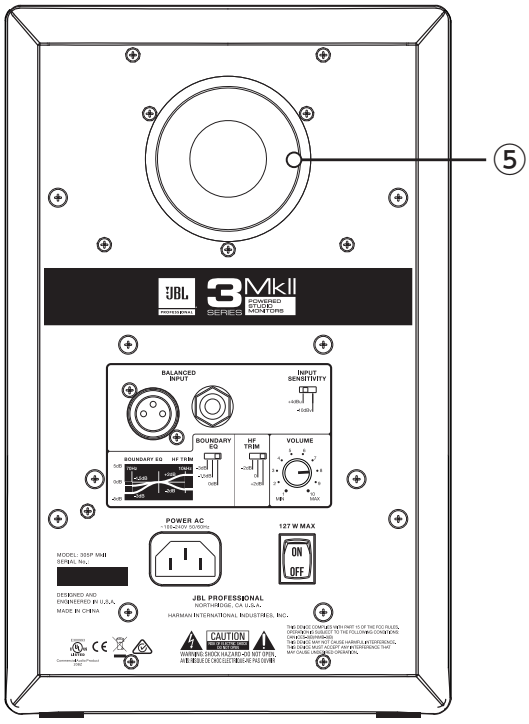
305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱ

※イラストは 305P Mk Ⅱのものですが、306P Mk Ⅱ、308P Mk Ⅱも同様です。

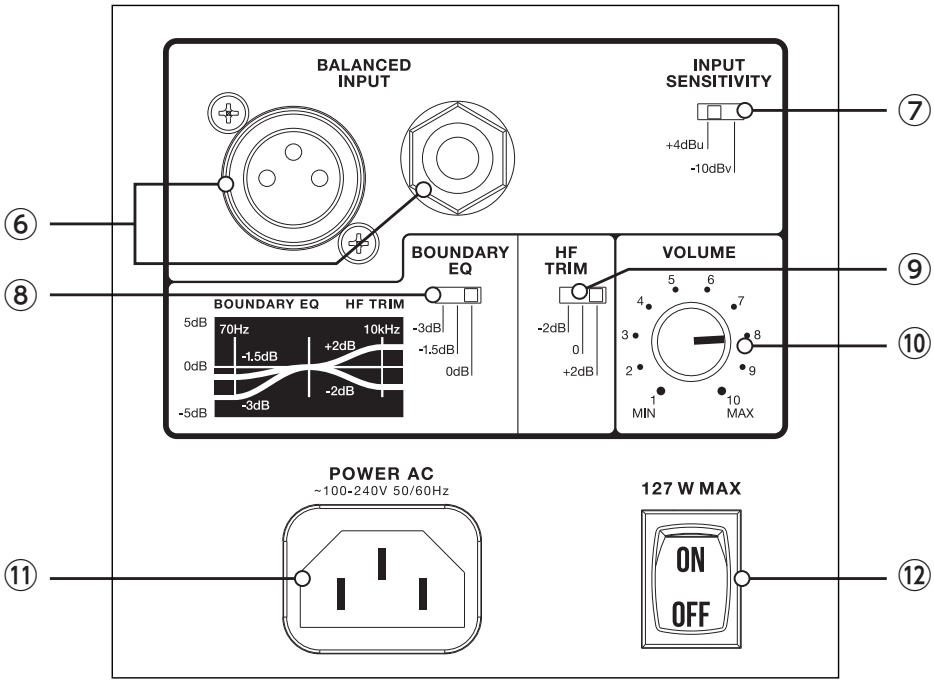
前面



背面



背面パネル



① 高域ドライバー (ツイーター)
高い周波数の信号を再生するドライバーです。

⚠注意 ・触ったりぶつけたりしないように注意してください。音質の劣化や損傷の原因となります。

② イメージコントロールウェーブガイド
音像の再現に優れた独自のウェーブガイドです。スピーカーの外側に延びるほどの広いステレオ音場を再生します。

③ POWER インジケーター
電源が ON になっていることを示すインジケーターです。電源が供給されていて電源スイッチが ON になっている場合に水色に点灯します。

④ 低域ドライバー (ウーファー)
低い周波数の信号を再生するドライバーです。

⚠注意 ・触ったりぶつけたりしないように注意してください。音質の劣化や損傷の原因となります。

⑤ 低域ポート
独自の“スリップストリーム”設計を採用したポートです。乱流を抑え、伸びと深みのある低域を出力します。

⑥ BALANCED INPUT 端子
XLR(バランス) または標準フォーン (3P バランス) の入力端子です。オーディオ･インターフェースやミキサー､LSR310S などを接続します。

⚠注意 ・2 つの端子は内部で並列に接続されています。どちらか一方の端子をお使いください。

⑦ INPUT SENSITIVITY スイッチ
BALANCED INPUT 端子に接続する機器に応じて、入力感度を＋4dBu または－10dBV に切り替えるスイッチです。ミキサーなど出力レベルの大きい機器を接続する場合は＋4dBu に、家庭用オーディオ・プレーヤーなど出力レベルの小さい機器を接続する場合や LSR310S の Balanced OUT 端子経由で信号を入力する場合は－10dBV に設定してください。

備考 ・誤操作防止のため、INPUT SENSITIVITY スイッチは奥まった場所に取り付けられています。先の細いドライバー等で切り替えてください。

⑧ BOUNDARY EQ スイッチ
低域のシェルビング・フィルターのカット量を切り替えるスイッチです。カットオフ周波数は 50Hz です。設置環境により低域が強まって聞こえてしまう場合に設定してください。

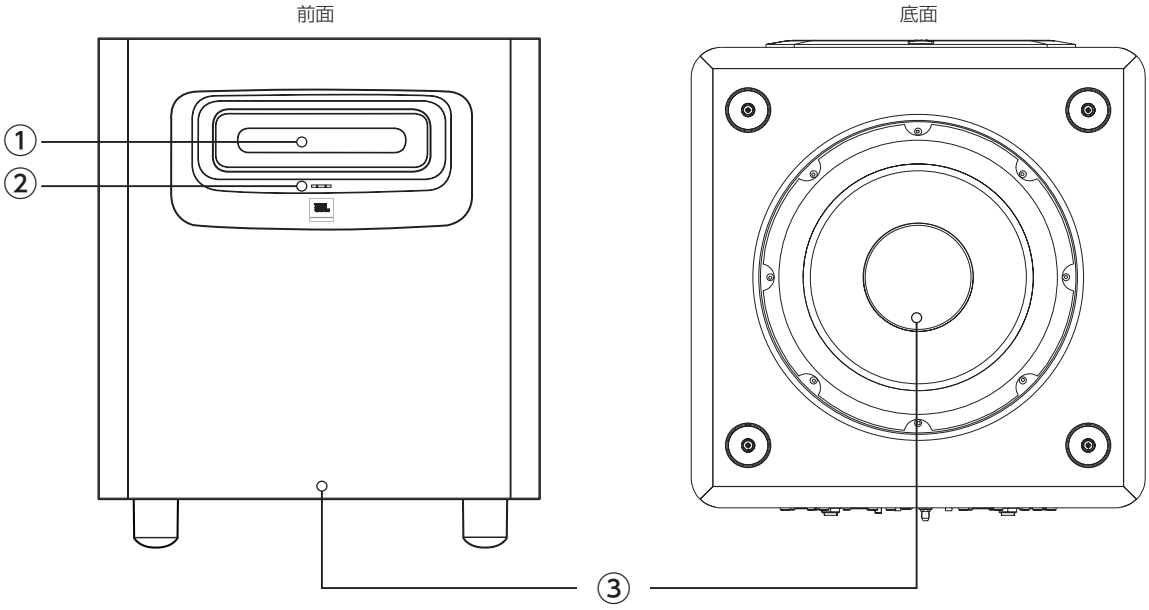
⑨ HF TRIM スイッチ
高域のシェルビング・フィルターのブースト / カット量を切り替えるスイッチです。カットオフ周波数は 4.4kHz です。設置環境や用途に応じて設定してください。

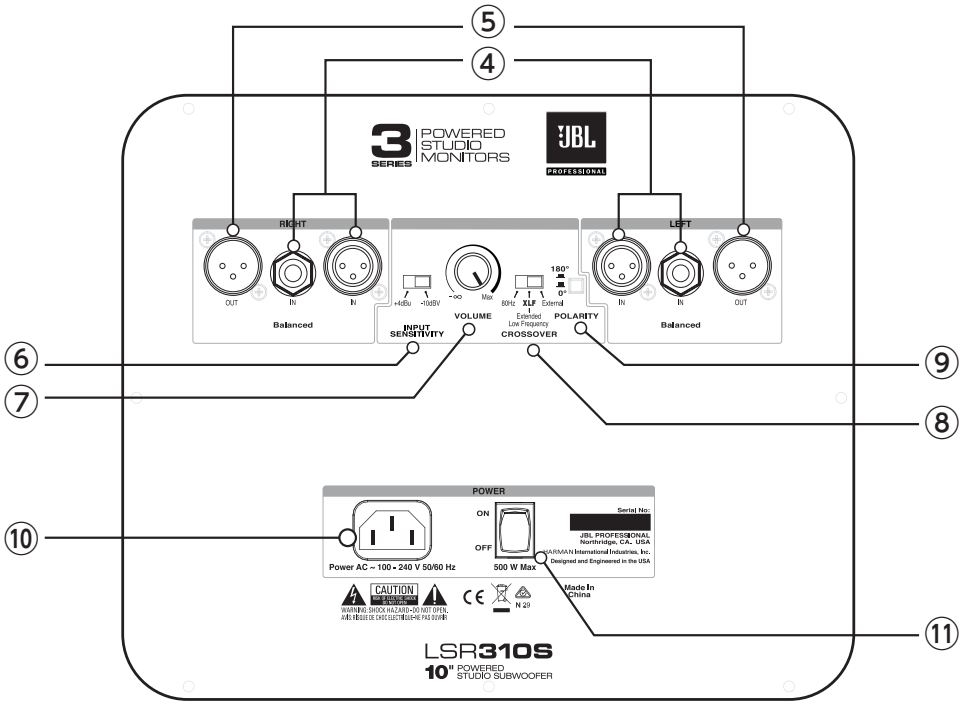
⑩ VOLUME つまみ
最終的な出力音量を調整するつまみです。

⑪ 電源端子
付属の電源コードの接続端子です。

⑫ 電源スイッチ
電源の ON/OFF スイッチです。

LSR310S





背面パネル

① 低域ポート
独自の“スリップストリーム”設計を採用したポートです。乱流を抑え、伸びと深みのある低域を出力します。

② POWER インジケーター
電源が ON になっていることを示すインジケーターです。電源が供給されていて電源スイッチが ON になっている場合に白く点灯します。

③ 低域ドライバー (ウーファー)
低い周波数の信号を再生するドライバーです。

⚠注意 ・ドライバーは触ったりぶつけたりしないように注意してください。音質の劣化や損傷の原因となります。

④ Balanced IN 端子 (LEFT、RIGHT)
XLR(バランス) または標準フォーン (3P バランス) の入力端子です。オーディオ・インターフェースやミキサーなどを接続します。

備考 ・本機の Balanced OUT 端子にステレオのフルレンジ・スタジオモニターを接続する場合は、LEFT と RIGHT の両方に信号を入力してください。INPUT SENSITIVITY スイッチや CROSSOVER スイッチ通過後の信号が、Balanced OUT 端子から L と R のステレオで出力されます。本機のみで使用する場合は、LEFT と RIGHT のどちらかに信号を入力してください。

⚠注意 ・XLR と標準フォーンの端子は内部で並列に接続されています。どちらか一方の端子をお使いください。

⑤ Balanced OUT 端子 (LEFT、RIGHT)
XLR(バランス) の出力端子です。305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱや他のフルレンジ・スタジオモニターを接続します。Balanced IN 端子に入力された信号が INPUT SENSITIVITY スイッチや CROSSOVER スイッチを通過後に出力されます。

⑥ INPUT SENSITIVITY スイッチ
Balanced IN 端子に接続する機器に応じて、入力感度を＋4dBu または－10dBV に切り替えるスイッチです。ミキサーなど出力レベルの大きい機器を接続する場合は＋4dBu に、家庭用オーディオ・プレーヤーなど出力レベルの小さい機器を接続する場合は－10dBV に設定してください。

⑦ VOLUME つまみ
最終的な出力音量を調整するつまみです。

備考 ・設定は Balanced OUT 端子から出力される信号には影響を与えません。

⑧ CROSSOVER スイッチ
クロスオーバー周波数を選択するスイッチです。システムや用途に応じて設定してください。

- 80Hz …… クロスオーバー周波数を 80Hz に設定し、本機の低域ドライバーには低域の信号を、Balanced OUT 端子には中高域の信号を出力します。内蔵のクロスオーバーを使用する場合、通常はこの設定にしてください。
- XLF …… クロスオーバー周波数を 120Hz に設定し、本機の低域ドライバーには 60Hz を 10dB ブーストした低域の信号を、Balanced OUT 端子には中高域の信号を出力します。内蔵のクロスオーバーを使用する場合で、低域を強調したい時にはこの設定にしてください。
- External …… クロスオーバー周波数を設定しません。本機の低域ドライバーや Balanced OUT 端子には入力信号がそのまま出力されます。外部機器を使用してクロスオーバー周波数を設定する場合はこの設定にしてください。

⚠注意 ・External に設定する場合、必ず外部機器でクロスオーバー周波数を設定してください。設定しないと、本機の低域ドライバーが適切に動作しません。

⑨ POLARITY ボタン
位相を反転させるボタンです。ボタンを押し込んだ状態に設定すると反転します。

備考 ・設定は Balanced OUT 端子から出力される信号には影響を与えません。
・通常は OFF で使用しますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては位相を反転させた方が低域の特性が改善する場合があります。聴き手の位置で低音が大きく聴こえる方に設定してください。

⑩ 電源端子
付属の電源コードの接続端子です。

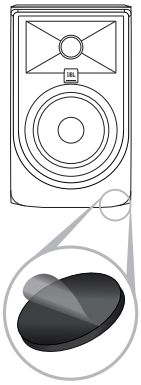
⑪ 電源スイッチ
電源の ON/OFF スイッチです。

セットアップ

設置

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱ

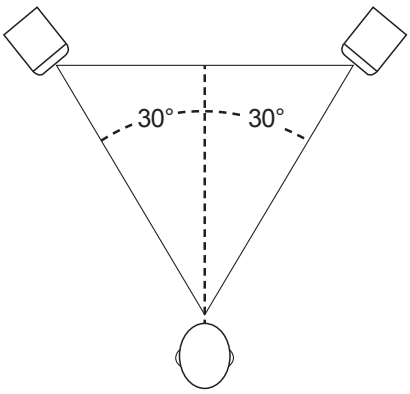
① 必要に応じて、付属のゴム足を底面の四隅に付けてください。



② 高域ドライバーが聴き手の耳をまっすぐ狙うように高さを調整します。

③ 左右のスピーカーと聴き手の位置が正三角形となるように距離や角度を調整します。

備考 ・上記は基本的な設置方法です。聴き手との距離や周囲の環境に応じて聴こえ方が変化します。より好ましい特性とステレオ音場が得られる位置を見つけてください。



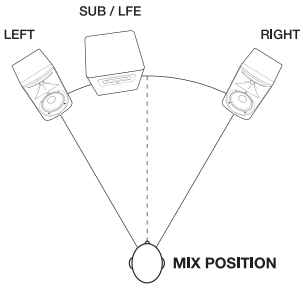
LSR310S

① ステレオ・システムの場合は、左右のスピーカーの間の床に設置します。サラウンド・システムの場合は、左または右のスピーカーとセンタースピーカーの間の床に設置してください。

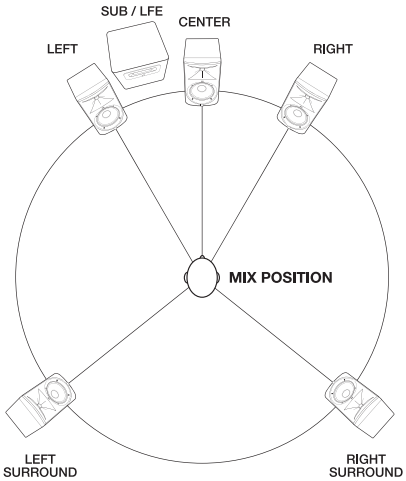
備考 ・LSR310S の低域ドライバーは底面パネルに下向きに取り付けられており、音を床に当てて反射させることで周囲に均一に拡散します。そのため、床には音を遮断するものをなるべく置かないでください。

② システム全体で最適な低音バランスとなるよう、聴き手と本機の距離を調整します。

備考 ・上記は基本的な設置方法です。壁の近くや部屋の角に設置すると低音の量が増加します。より好ましい特性が得られる位置を見つけてください。



ステレオ・システム



5.1 サラウンド・システム

接続と電源の ON

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱのみのシステムの場合

① 本機の電源スイッチが OFF、VOLUME つまみが最小になっていることを確認してください。

② オーディオ・インターフェースやミキサーなどの入力機器の電源が OFF、音量が最小になっていることを確認し、BALANCED INPUT 端子に接続します。

③ 入力機器の出力レベルに合わせて INPUT SENSITIVITY スイッチを設定します。

④ 電源コードで電源端子と電源コンセントを接続します。

⑤ 入力機器の電源を ON にします。

⑥ 本機の電源スイッチを ON にします。

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk ⅡとLSR310S を組み合わせたシステムの場合

① 本機の電源スイッチが OFF、VOLUME つまみが最小になっていることを確認してください。

② オーディオ・インターフェースやミキサーなどの入力機器の電源が OFF、音量が最小になっていることを確認し、LSR310S の Balanced IN 端子に接続します。

③ LSR310S の Balanced OUT 端子を 305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱの BALANCED INPUT 端子に接続します。

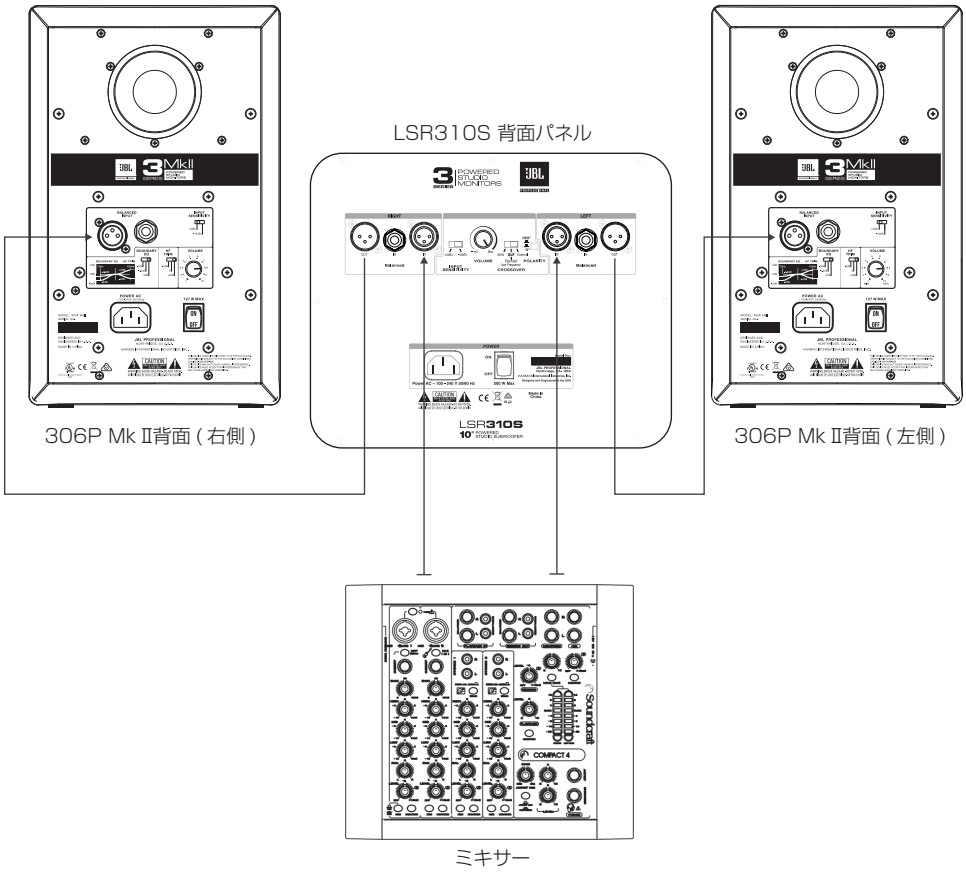
④ 入力機器の出力レベルに合わせて LSR310S の INPUT SENSITIVITY スイッチを設定します。305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱの INPUT SENSITIVITY スイッチは－10dBv に設定してください。

⑤ 電源コードで電源端子と電源コンセントを接続します。

⑥ 入力機器の電源を ON にします。

⑦ まず LSR310S、次に 305P Mk Ⅱ /306P Mk Ⅱ /308P Mk Ⅱの順番に電源スイッチを ON にします。

306P Mk ⅡとLSR310S を組み合わせたシステムの接続例



音量 / 音質の調整

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk Ⅱのみのシステムの場合

① オーディオ・インターフェースやミキサーなどの出力レベルを、実際に使用する時の状態に設定します。

② 出力音を聴きながら、本機の VOLUME つまみを希望の音量になるまで回します。

③ 必要に応じて BOUNDARY EQ スイッチや HF TRIM スイッチで低域／高域の特性を調整します。

305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk ⅡとLSR310S を組み合わせたシステムの場合

① LSR310S の CROSSOVER スイッチを 80Hz に設定します。

備考 ・低域を強調したい場合は XLF に設定してください。

② オーディオ・インターフェースやミキサーなどの出力レベルを、実際に使用する時の状態に設定します。

③ 出力音を聴きながら、本機の VOLUME つまみを希望の音量になるまで回します。305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk ⅡのVOLUME つまみと LSR310S の VOLUME つまみは同じ位置に設定してください。

④ LSR310S の POLARITY ボタンを低音が大きく聴こえる方に設定します。

⑤ 必要に応じて305P Mk Ⅱ / 306P Mk Ⅱ / 308P Mk ⅡのBOUNDARY EQスイッチやHF TRIMスイッチで低域 / 高域の特性を調整します。

電源の OFF

① VOLUME つまみを最小にします。

② オーディオ・インターフェース、ミキサーなどの出力レベルを最小にします。

③ 本機の電源スイッチを OFF にします。

④ オーディオ・インターフェース、ミキサーなどの電源を OFF にします。

トラブルシューティング

以下は、通常発生する可能性のあるトラブルの症状とその対策です。解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症　状	原　因	解決方法
電源が ON にならない (POWER インジケーターが点灯しない)	電源コードが正しく接続されていない	電源コードを正しく接続します。
	電源スイッチが ON になっていない	電源スイッチを ON にします。
	電源コードに不具合がある	正常な電源コードに交換します。
	コンセントの電圧が 100V 未満になっている	コンセントの電圧が 100V になっているか確認します。
電源を ON にしても音がでない 音は出ているが非常に小さい	入力信号のレベルが低すぎる	音源となる機器の出力レベルを上げます。
	VOLUME つまみの設定が低すぎる	VOLUME つまみの設定を上げます。
	機器の接続方法が間違っている	接続方法を確認します。
	INPUT SENSITIVITY スイッチの設定が間違っている	INPUT SENSITIVITY スイッチを－ 10dBV に設定します。
	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換します。
音が歪む	入力信号のレベルが高すぎる	音源となる機器の出力レベルを下げます。
	VOLUME つまみの設定が高すぎる	VOLUME つまみの設定を下げます。
	INPUT SENSITIVITY スイッチの設定が間違っている	INPUT SENSITIVITY スイッチを +4dBu に設定します。
低域が強調されてしまう	スピーカーと作業デスクが共振している	スピーカースタンドを使用するか、インシュレーターや制振材などをスピーカーの下に設置します。
		BOUNDARY EQ スイッチを－ 1.5dB または－ 3dB に設定します。
	スピーカーが壁に近すぎる	スピーカーを壁から離して設置します。
		BOUNDARY EQ スイッチを－ 1.5dB または－ 3dB に設定します。

仕様

		305P Mk Ⅱ	306P Mk Ⅱ	308P Mk Ⅱ
周波数レンジ (− 10dB)		43Hz ～ 24kHz	39Hz ～ 24kHz	37Hz ～ 24kHz
最大音圧レベル (1m、C ウェイト)		108dB SPL	110dB SPL	112dB SPL
ドライバー構成	LF	5 インチ (127mm)	6.5 インチ (165mm)	8 インチ (203mm)
	HF	1 インチ (25mm)		
クロスオーバー周波数		1,725Hz	1,425Hz	1,800Hz
パワーアンプ		41W × 2、Class D	56W × 2、Class D	
入力	端子	XLR または標準フォーン (3P)		
	感度 (− 10dBV、1m)	92dB SPL		
	最大入力レベル (+4dBu)	+20.3dBu		
電源		AC100V、50/60Hz		
寸法 (W × H × D、除突起部)		186 × 298 × 242mm	222 × 360 × 266mm	252 × 417 × 300mm
質量		4.7kg	5.9kg	8.1kg
付属品		ゴム足× 4 (1 シート)、電源コード、和文取扱説明書		

		LSR310S
周波数レンジ (− 10dB)		27Hz
最大音圧レベル (1m、C ウェイト)		113dB SPL(半空間)
ドライバー構成		10 インチ (254mm)
クロスオーバー周波数		80Hz/120Hz
パワーアンプ		200W
入力	端子	XLR × 2 または標準フォーン (3P) × 2
	感度 (− 10dBV、1m)	92dB SPL
	最大入力レベル (+4dBu)	+20.3dBu
出力	端子	XLR × 2
電源		AC100V、50/60Hz
消費電力 (1/8 出力、ピンクノイズ)		20W
寸法 (W × H × D、除突起部)		380 × 452 × 391mm
質量		16kg
付属品		電源コード、和文取扱説明書

●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO

http://www.hibino.co.jp/
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110　FAX: 03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890　FAX: 06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500　FAX: 092-611-5509

札幌オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770　FAX: 011-640-6776

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712　FAX: 052-589-2719